

授与動詞の多義性に関する日タイ語対照研究

—対訳コーパスに基づく考察—

Salirat KAWEEJARUMONGKOL

要 旨

本稿では翻訳作品を対訳コーパス資料とし、日タイ語の授与動詞における意味用法を考察した。その結果、本動詞の場合、両言語を通じて「授与」として用いられるが、両言語の授与動詞の性質が異なることが明らかになった。また、タイ語の授与動詞には「使役」の用法も存在する。本動詞以外の用法に関しては、日本語の授与動詞は補助動詞の形式で恩恵に関わる用法を発達させていると特徴づけることができる。一方、タイ語の授与動詞は前置詞（文末詞を含む）や接続詞の形式で恩恵に無関係の用法として発達させているということが特徴づけられる。

【キーワード：日本語 / タイ語 / 授与動詞 / 意味用法 / 対訳コーパス】

1. 研究背景と目的

日本語の授与動詞には「与える」「渡す」「アゲル」「クレル」等が存在する。しかし、「与える」や「渡す」等は本動詞以外の文法用法がないが、「アゲル」や「クレル」等は、タイ語の授与動詞 *hây*¹ (GIVE) と同様に、文法の形式を持つ。「アゲル」「クレル」「ヤル」及びその敬語形である「サシアゲル」「クダサル」は補助動詞として用いられる場合、恩恵の用法と非恩恵の用法が存在するということが様々な研究で指摘されている。タイ語の授与動詞 *hây* についても本動詞以外の機能として用いられる場合、様々な用法を持つと指摘された研究は少なくない。また、対訳コーパスから見ると、以下の (J1) (T1) と (J2) (T2) のように、同様の状況であっても、一方では授与動詞が用いられているが、他方では用いられていない場合が見られる。

(J1) おれとずっといてくれるよな？

(T1) *thəə cà yùu kàp raw talótpay chây máy?*
二人称 未来 いる と 一人称 ずっと 疑問詞

出典：原作『陽だまりの彼女』 訳本『Yīngsáaw nay sēn tawan』

(T2) *pīi-wəw rápwây phrómkàp yím hây phóm*
姉・ウエーウ 合掌をし返しながら 微笑む GIVE 一人称

(J2) ピー・ウエーウは微笑みながら合掌をし返した。

出典：原作『Weelaa nay kùat kěw』 訳本『瓶の中の時間』

(J1) の日本語では授与動詞「てくれる」が用いられているが、(T1) のタイ語ではただ「*yùu*」(いる)の動詞で済まされている。また、(T2) のタイ語では「*yím*」(微笑む)に *hây* を付け加え、前置詞

として用いられているが、(J2)の日本語では授与動詞が用いられていない。このことから、日本語とタイ語の授与動詞の持つ意味用法が異なるのではないかと考えられる。

本稿では、同様の状況で日本語とタイ語の授与動詞における特徴を見極めるために、翻訳作品を対訳コーパスの資料として用い、日本語とタイ語の授与動詞の意味用法の異同を比較した上で、両言語の授与動詞を特徴づけることを目的とする。両言語の授与動詞を用いる際に見られる特徴を明らかにし、日タイ語の対照研究及び類型論的な研究に貢献したい。

2. 先行研究

授与動詞に関する研究は多岐にわたり様々な言語で盛んに行われてきた。日本語とタイ語の授与動詞の意味用法に関する研究も少なくない。日本語の授与動詞「アゲル」「クレル」「ヤル」は、行為者の行為によって被行為者である受け手の受益・恩恵を表し、話者の視点によって使い分けられている(大江1975、久野1978等)。本動詞の場合も補助動詞の場合も、「与える」や「渡す」等のような他の授与動詞と異なり、物の所有権の移動や行為の方向を表すのみならず、その行為が恩恵的な行為であるということが含意されている(益岡2001)。

また、日本語の授与動詞は補助動詞として用いられる際、恩恵用法は勿論、非恩恵用法も存在するというところに注目し考察した研究も少なくないが、恩恵・非恩恵用法の区別には見解が分かれている。授与動詞の補助動詞における意味用法を考察した豊田(1974)は「てやる」自体は利益か不利益を意味せず、動詞の方向が対象語へ向かうことを表し、その行為は対象語に対してプラスの利益かマイナスの利益を与えることは話し手の側からの主観によるものとしている。また、この基本的な用法の他に、全く利益・不利益に関わらない用法を、意志を表す用法と方向を表す用法に大別している。豊田(1974)は「てくれる」の場合も「てやる」と同様に補助動詞自体は利益・不利益を意味せず、主体の行為は話し手へ向かい、その行為は話し手の側から利益か不利益を評価する表現と示している。更に、以下の例文のような行為の主体が無生物、つまり擬人的表現や自然現象を表す表現に関しても「あたかも自己に向かって行われたように表現することができる(同:84)」と主張している。

(27) このおびただしい量の水は……土もいっしょに運んでくれました。(同:83)

(36) 人間は……「雨がふりますように。」と神様においのりしたりしました。しかし天気は、そのとおりになってくれるものではありません。(同:84)

受益表現である「～てくれる」の用法を考察した山橋(1999)では「～てくれる」は本来出来事に対して話者が利益・恩恵を感じることを表すと提案されており、話者の語用論的知識によって「話し手が被害・迷惑を受けることにより感じる怒りを皮肉の意を込めて『(-て)くれる』を転用している(同:88)」とされている。このことから山橋(1999)では利益・不利益は全く異なる用法ではなく、同一の用法として扱われていると考えられている。山橋(1999)ではこれまでの研究と異なり、以下の例文のような動作の主役が無生物で有情名詞でない場合も動作主が有情名詞と同様

に「ありがたいことに」や「嬉しいことに」の表現と共起可能であるといった点で話者の感じる「利益・恩恵」と関連付けたと主張している。

(31) ありがたいことに、車が直ってくれた (同：87)

(32) 嬉しいことに、きれいな花が咲いてくれた (同：87)

「～てやる」の意味用法に関して論じた高見・加藤 (2003：97) は『『～てやる』自体は、利益や不利益の意味とは独立しており、このような意味は、文脈や私たちの語用論的知識から生じるものである』と主張している。また、以下のような例文を取り上げ、利益・不利益とは無関係である「強い意志」(7a) と「条件」(7b) としても用いられると示している。

(7) a 来年こそはきっと東大に合格してやるぞ！

b 文脈を与えてやっても、この文は適格性が上がりません。(同：97)

一方、日本語の授与表現の補助動詞を包括的に考察した山田 (2004) は「恩恵」の定義はこれまでの先行研究と同様に出来事の当事者にとっての利益の行為が恩恵的行為として扱われており、恩恵を表す授与動詞の補助動詞形式をベネファクティブと呼ぶ。一方、被害や迷惑を受けたことを表す用法や強い意志を表す用法など、恩恵の意味が感じられないものを非恩恵型ベネファクティブとして扱っている。更に、山田 (2004) は、豊田 (1984) の利益・不利益に関わらない用法を再検討し、非恩恵型テヤルの分類を受影者の存在によって「受影者存在型」「受影者希薄型」「受影者不在型」に分けている。

上記で取り上げた研究の中で日本語の授与動詞、特に補助動詞としての用法においては利益・不利益や恩恵・非恩恵の用法の区別に関しては一致していないことが分かった。それは以下のようにまとめられる。

- 1) 補助動詞の用法に「利益・不利益」のみ存在するとされている研究 (山橋1999)
- 2) 利益・恩恵を表すものは恩恵用法であり、被害や不利益を表す用法、利益・不利益に関わらない意志を表す用法、擬人化表現として用いられる用法等のような恩恵を表さないものは全て非恩恵用法として扱われる研究 (山田2004)
- 3) 利益・不利益を表す用法は一つの用法とされており、全く利益・不利益に関わらない用法は非恩恵用法として扱われている研究 (高見・加藤2003、豊田1974)

このように見解が分かれていることが原因で如何なる分類を行うべきか明らかになっていない。また、受益・恩恵を表す表現ということは日本語の授与動詞の特徴だと多数の研究で述べられているものの、実際に日本語の授与動詞は受益・恩恵を表すか否かといった点に関して明らかになったとは言い難い。更に、日本語の授与動詞の意味用法に関して恩恵・非恩恵ということに注目してきたが、他言語と比較することによってその恩恵・非恩恵用法に関して如何なる類似点や相違点が見られるかはまだ不明である。このことから、日本語の授与動詞ならではの特徴を見極めるにあたって他言語と比較することが必要であると考えられる。

一方、タイ語の授与動詞 *hây* の意味用法に関する研究は Iwasaki & Yap (1998)、Rangkupan (2007)、Iwasaki (2008)、Thepkanjana & Uehara (以降、「T & U」に略す) (2008) 等が挙げられる。これら

の研究で提示された授与動詞 *hây* の用法には構文的な特徴として「物事の所有権の移動」の他に、「受益格」「使役節」「与格」「加害」「接続詞」（「目的節」「命令・依頼節」「補文・願望節」）等が存在し、本動詞から前置詞や接続詞への拡張が見られる。しかし、Iwasaki (2008) 以外、全ては実際に使用されたデータに基づいた結果ではないため、*hây* の用法は以下の表1のように一致していないことが分かる。

表1 タイ語の授与動詞 *hây* の用法の比較表（前置詞としての用法）

用法	Iwasaki & Yap (1998)	Rangkupan (2007)	Iwasaki (2008)	T & U (2008)
Possession transfer (物事の所有権の移動)	○	○	○	○
Dative (与格)	○	○	×	○
Benefactive/ Deputative Benefactive (受益/代理恩恵)	○	○	○	○
Malefactive (加害)	×	×	○	○
Causative (使役)	○	○	○	○
Purposive (目的)	○	○	○	○
Jussive (命令)	×	○	×	○
Inducive (誘導)	○	○	○	○
Desirative (願望)	×	○	○	○
Noninterventive (不介入)	×	×	○	×
Emphatic (強調)	×	×	○	×
Manner/Adverbial (様態)	×	×	○	×

表1に示したように、タイ語の授与動詞の用法に関して考察したものの中で分類に関する見解が分かれている。このような問題が生じたのは結果が実例のデータに基づいておらず、分類に必要な実例が現れる状況が確認できないためと考えられる。より正確に分類するにあたって文脈状況が確認可能なデータに基づく資料が不可欠ではないかと考えられる。

授与動詞に関する日タイ語の対照研究に関しては、江田 (1983) をはじめ、Youyen (2001)、田中 (2004) が挙げられる。江田 (1983) と田中 (2004) は日本語教育の観点から日タイ語の授受動詞の用法を比較した。江田 (1983) は日本語の短篇小説及びそのタイ語訳を資料とし、タイ語の *hây* の用法を中心に「てやる・てくれる・てもらう」に対応するタイ語の表現の考察を行った。江田 (1983) ではそれらの日本語の授受補助動詞に対応するタイ語の表現は「*hây* + 動詞」「動詞 + *hây*」「動詞のみ」だと指摘されている。しかし、対応関係に基づくタイ語の *hây* の用法のみ考察しており、タイ語の *hây* の用法と日本語の授与動詞の用法を相対的に考察することはなかった。田中 (2004) は日タイ語の授受動詞の用法及び対応関係に関し重要な表現のみ取り上げ、両言語の表現を比較したが、日タイ語のそれぞれの言語における授与動詞の用法を網羅的に述べてはいない。また、日本語では授与動詞を付加することによってその行為による恩恵をほどこすニュアンスが含意されるが、タイ語の授与動詞 *hây* は行為の方向を表すが、恩恵の情意は表していないとしている

(同：254)。しかし、田中（2004）では実際に日本語とタイ語の授与動詞において恩恵を表すか否かという証拠に関しては示していない。一方、日タイ語の授与動詞による受益文の構文的かつ意味的な類似・相違点を考察した Youyen（2001）は両言語の授与動詞の受益文における統語構造と意味構造を分析することにより、タイ語では授与動詞の目的語は具体的・抽象的な名詞、受益者にとって好意的・非好意的なものが使用可能である一方、日本語では前者のみに限られると指摘している。さらに、Youyen（2001）は、受益解釈は受益者にとって「好意的結果」(favor) と「～の代わりに」(on behalf of) という意味を表し、以下のような例文を取り上げ、タイ語の受益文は両者の読みが可能であるのに対し、日本語では前者の方のみ表すため、以下の (28b) のような文は適格な文ではないと主張している。

(28a) dam khâa maleeŋ-sàap hây malii
ダム 殺す ゴキブリ GIVE マーリー

「ダムはマーリーの代わりにゴキブリを殺してやった。」(同：56)

(28b) *太郎は 花子に ゴキブリを 殺してやった。(同：56)

しかし、Youyen（2001）では両言語の授与動詞の網羅的な用法に関する類似点・相違点に関しては述べていない。

上述のように、タイ語の授与動詞の用法に関する見解が分かれており、日タイ語の授与動詞に関する対照研究の中で両言語の授与動詞における用法に関して網羅的に考察したものほとんどない。また、日タイ語の授与動詞の用法における特徴、特に日本語の授与動詞は恩恵を表すが、タイ語の授与動詞は恩恵を表さないのかという点に関しては明確にされたとは言い難い。そこで、本稿では実際に使用したデータに基づき翻訳作品を対訳コーパスの資料として用い、同様の状況で両言語の授与動詞の用法を比較した上で、両言語の本動詞とそれ以外の用法における類似点及び相違点を明らかにし、両言語の授与動詞を特徴づける。

3. 研究方法

本稿では同様の状況で両言語の授与動詞の使用状況を客観的に比較できるように対訳コーパスを用い、考察を行った。本稿で用いられる対訳コーパスは日本語の小説7編とそのタイ語訳及びタイ語の小説3編とその日本語訳²からなるものである。

研究対象は、日本語の授与動詞は「アゲル」「クレル」「ヤル」とそれらの敬語形「サシアゲル」「クダサル」の全ての用法で、それぞれの補助動詞系「テアゲル」他を含む。タイ語の授与動詞は hây の全ての用法、つまり本動詞とそれ以外の機能の場合の用例全てである。さらに、日本語の「～てください。」や「～していただけませんか」などの文型として定着した表現、或いはタイ語の定着した文法表現「hây dây」（絶対～する）や「tham hây」（使役）のような語彙化したものは本稿の対象外とした。

本稿では翻訳作品を対訳コーパス資料として用い、対象としたタイ語と日本語の授与動詞が出現した例文を抽出し、分類・分析と考察を行った。また、両言語の授与動詞の意味用法の異同を考察

するにあたって、先行研究の意味用法の分類を参考にし、授与動詞の本動詞とそれ以外の機能としての意味用法の分類を試みた。さらに、それぞれの言語の授与動詞が、本動詞として用いられる場合とそれ以外の機能として用いられる場合の意味用法を比較した上で、両言語の授与動詞の用法における類似点と相違点に関する考察を行った。

4. 本稿における「恩恵・非恩恵」の定義

上述のように、本稿では日タイ語の小説を対訳コーパスとして用いることによって両言語の授与動詞の用法における特徴を探る。特に、これまでの先行研究で指摘された日本語の授与動詞に内在する「恩恵」とそれが無いタイ語の授与動詞は、本稿のデータに基づき両言語の特徴を見極める。日本語の授与動詞における「恩恵」に関しては、益岡（2001）では日本語の授与動詞と共に起る具体的なものや行為は受け手にとって好ましいものであり、特に補助動詞にはその事象に対し受益者にとって恩恵的なものという話者の主観的な判断や評価が含まれているとしている。上原（2016）は「～てくれる」の構文は、『て』形で表される行為や出来事とその移動物のように比喩的に捉えられ、物の受け手が行為や出来事の『恩恵』の受け手を表すようになった恩恵構文の一つである（同：36）」と述べている。上原（2016）では日本語の授与動詞は補助動詞の形式で、「その動詞の指示内容である行為や出来事など客観的な事象に対する話者の情意を『付加』する機能を専門とする（同：36）」とし、同様の形式で迷惑の情意を表す表現にもなると指摘している。つまり、その出来事が利益か不利益かは、日本語の授与動詞自体が表すのではなく、文脈状況や話者の捉え方によって異なると考えられている。

本稿では日本語とタイ語の授与動詞に内在する特徴を明らかにするため、益岡（2001）と上原（2016）で指摘されていることを踏まえ、本稿の「恩恵」を、「客観的な出来事に対する話者にとっての利益或いは被害や迷惑などのような情意を表す用法」と定義する。すなわち、これまでの先行研究で扱われている「利益」や「恩恵」等のような良い意味を表すものと「被害」や「迷惑」等のような悪い意味を表すものは本稿の「恩恵」に含まれる。一方、「非恩恵」に当たるものを『意志』のような『恩恵』に無関係の用法」と定義する。

5. 結果及び考察

対訳コーパスから得たデータに基づき、意味用法の分類を試み、分析及び考察を行った。その結果と考察は以下の5. 1と5. 2で述べる。本稿では対訳コーパスから得たデータに基づき、日本語の授与動詞は本動詞の場合も補助動詞の場合も恩恵の意味を中心に用法を拡張している一方、タイ語の授与動詞はいずれの場合も恩恵に関わらない意味を中心に用法を拡張していることを検証する。また、それぞれの授与動詞の用法における特徴について述べていく。

5. 1 本動詞としての日タイ語の授与動詞の意味用法

日本語とタイ語は本動詞として用いられる場合、以下の表2のように示す。

表2 意味用法別の本動詞としての日タイ語の授与動詞の出現数

本動詞としての用法	日本語			タイ語
	アゲル	クレル	ヤル	hây
授与	16 (100.00%)	21 (100.00%)	4 (100.00%)	166 (39.71%)
使役	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	252 (60.29%)
合計	16 (100.00%)	21 (100.00%)	4 (100.00%)	418 (100.00%)

表2に示したように、日本語の授与動詞は本動詞として用いられる場合、計41件でそのうち、「アゲル」16件、「クレル」21件、「ヤル」4件であり、全て物の所有権の移動を表す「授与」として用いられることが分かった。一方、タイ語の授与動詞 hây は「授与」のみならず、「使役」の意味も表し、それぞれ166件と252件である。さらに、タイ語の授与動詞 hây は「使役」の意味の方が多用され、418件の中で252件、つまり約60%を占めている。

また、両言語の授与動詞とも本動詞として用いられるため、対応関係から比較することが可能であり、対訳コーパスより両言語の対応関係を以下の図1に示す。

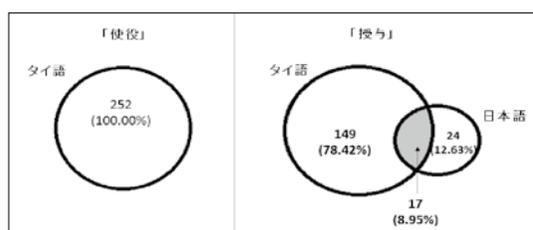


図1 日本語とタイ語の授与動詞（本動詞）における対応関係の割合

図1は日本語とタイ語の授与動詞の本動詞における対応関係の割合を示したものである。図1に示したように、本動詞として用いられる場合、タイ語の hây は「使役」として用いられるが、日本語の授与動詞の本動詞にはこのような用法がないため、日本語の本動詞はこの用法のタイ語には対応していない。一方、「授与」に関しては、両言語の本動詞ともこの用法が存在するが、190件の中で、同様の場面で両言語とも本動詞が用いられているのは僅か8.95%のみ見つけた。つまり、対応していないものはそれぞれの言語の授与動詞の本動詞における特徴を示したものだと考えられる。次では対応していない部分に注目してそれぞれの言語の授与動詞の本動詞における特徴に関して述べていく。

5. 1. 1 日本語の場合

<授与>

以上の図1の対応関係の割合から明らかなように、日本語では授与動詞が用いられているが、タイ語では用いられていない事例は190件のうち24件（12.63%）存在する。これらの事例を詳細にみると、日本語の授与動詞は、物体のみならず、下記の (J3) と (J4) に示すように、「水をやる」や「電

話をくれる」などの具体的な行為を表す場合にも用いられている。

(J3) ベランダの花に水をやっているときも。

(T3) lɛʔ weelaa **rót náam** tɔnmáy kɔochɛnkan
 そして 時 水を撒く 木 も

出典：原作『陽だまりの彼女』訳本『Yiŋsáaw nay sɛɛŋ tawan』

(J4) お前が電話をくれて嬉しいよ。

(T4) diicay thii kɛɛ **thoo maa**
 うれしい 関係代名詞 二人称 電話してくる

出典：原作『Weelaa nay kùat kɛw』訳本『瓶の中の時間』

(J3) と (J4) の日本語の実例ではいずれも授与動詞が用いられているが、タイ語では授与動詞ではなく、単なる「rót náam」(水を撒く)と「thoo maa」(電話してくる)のような具体的な行為を表す動詞のみで表されている。日本語では「電話をくれる」や「水をやる」を用いることにより、その名詞「電話」や「水」を受け手に授与するということが捉えられており、授与動詞のみで具体的な行為までも含まれている。一方、タイ語では単なる授与動詞のみではそこまで表されず、この状況で本動詞 hây を用いると、受け手に物体を与えるということを表す。すなわち、「hây」+「thoorasáp」(電話)の場合、受け手に「thoorasáp」(電話)そのものを、「hây」+「náam」(水)の場合、受け手に「náam」(水)そのものを与えることを表す。また、「hây náam」(水を与える)はコップ等に入っている水を与えるという意味になっており、この点で「rót náam」(水を撒く)と異なる。このように、日本語では授与動詞の本動詞だけで済まされているが、タイ語では具体的な行為を表す動詞が用いられている。

5. 1. 2 タイ語の場合

<授与>

上記の図1に示したように、タイ語では授与動詞が用いられているが、日本語では用いられていないのは190件のうち149件(78.42%)である。実例からみると、両言語の授与動詞との共起可能の対象物の性質に参与していることが観察された。タイ語の hây は意味的には日本語の「与える」に近いと考えられる。なぜなら、前述のように「ヤル(アゲル)」「クレル」等の授与動詞は「与える」や「渡す」と異なり、物体の授与を表すのみならず、授与の対象物は受益者にとって「好ましい」ものであるという意味も表す(益岡2001)が、「与える」や「渡す」は単なる授与を表す動詞であるためである。タイ語の「授与」の hây は日本語の「与える」と同様に、具体的なもののみならず、「大切さ」や「約束」のような行為を表さない抽象的な事物の場合にも用いられる。下記の (J5) と (J6) に示すように、日本語では単独の動詞が用いられている。

(T5) thammay thəə thũŋ chɔp **hây** **khwaam-sámkhan** káp sɪŋkhɔŋ
 どうして 二人称 わけ よく GIVE 大切さ 前置詞 物質的なこと

yùurúay ná?

ばかり 終助詞

(J5) どうしてそんな物質的なことばかりに目を向けるわけ？

出典：原作『世界の中心で、愛をさけぶ』訳本『Yáak kùu-róng bòok-rák háy kón lóok』

(T6) phóm **hây** **khammân**

一人称 GIVE 約束

(J6) 僕はきっぱり約束した。

出典：原作『Weelaa nay kùat kêew』訳本『瓶の中の時間』

(T5) と (J5) で明らかのように、タイ語では *hây* を用いることにより、「*khwaam-sámkhan*」(大切さ) をものとして捉えており、その「大切さ」を「*sinkhǒng*」(物質的なこと) の方に与えるという出来事が描写されている。一方、日本語では授与動詞ではなく、「目を向ける」のように別の動詞が用いられている。また、(T6) と (J6) では同様の状況で話者が聞き手に対して約束したことが表されているが、タイ語では「*hây khammân*」(約束を与える) のように授与動詞を本動詞として用いることによって「*khammân*」(約束) を具体的なもののように捉えられているのに対し、日本語では「約束した」の単独の動詞が用いられている。

<使役>

タイ語の授与動詞 *hây* は表2に示したように、「授与」の意味のみならず、「使役」の意味でも用いられる。「使役」は具体的・抽象的な物事の授与を表す「授与」の意味から派生し、行為を行う権利を与えるという意味を表すと考えられる。すなわち、「行為を行う権利」を「物事」のように捉えており、それを誰かに与えることを表し、「使役」の意味が生じる。よって、この *hây* に後接するのは名詞である目的語ではなく、従属節である。

(T7) thǔng nǔu sǒp dáy mĕe kǒo **mây** **hây** pay

～ても 二人称 合格する 一人称 助辞 否定辞 GIVE 行く

(J7) お前が合格しても外国へは行かせないよ

出典：原作『Khâu kam』訳本『メナムの残照』

(T7) に示したように、*hây* に後接したのは「(nǔu) pay」((お前が) 行く) の従属節であり、受け手の「お前」に「行く」権利を与えないことを表している。この場合、日本語の授与動詞にはそのような使役の用法がないため、(J7) では「行かせない」という使役形(「～させる」)が用いられている。

5. 1. 3 まとめ

日本語とタイ語の授与動詞の本動詞は「授与」として用いられる点で共通しているが、両言語の

授与動詞の本動詞の性質が異なる。日本語では授与動詞の本動詞のみで具体的な行為も含まれているが、タイ語では具体的な行為を表す際、単独の動詞で済まされる。また、タイ語の授与動詞の「授与」は、具体的なものに限らず、行為を表さない抽象的なものの場合にも用いられる。さらに、タイ語の授与動詞 *hây* は、本動詞として用いられる際、「使役」の意味でも使用されており、日本語の授与動詞にはない用法である。このような本動詞に内在する意味はどの程度それ以外の用法に影響を及ぼすかについて5. 2で述べる。

5. 2 本動詞以外の機能としての日タイ語の授与動詞の意味用法

日本語とタイ語の授与動詞は本動詞以外の用法で用いられると、前者は補助動詞として、後者は前置詞（文末詞を含む）と接続詞として用いられる。同様に授与動詞の本動詞から拡張したものであるが、それぞれ構文上の機能が異なるため、ここでは言語に分けてそれぞれの言語の拡張用法の特徴を取り上げ、述べる。

5. 2. 1 日本語の場合

日本語の授与動詞の本動詞以外の用法に関しては様々な研究で指摘されており、様々なアプローチによって分類が異なることはあるが、ここでは日本語とタイ語の対訳コーパスを用い分類・分析した結果に基づき考察を行う。対訳コーパスに出現した日本語の授与動詞の本動詞以外の用法を分類・分析した結果を表3に示す。

表3 意味用法別の本動詞以外の日本語の授与動詞の出現数

本動詞以外の用法		テアゲル	テクレル	テヤル
補助動詞	「恩恵」	106 (100.00%)	720 (100.00%)	117 (97.50%)
	「非恩恵」	0 (0.00%)	0 (0.00%)	3 (2.50%)
合計		106 (100.00%)	720 (100.00%)	120 (100.00%)

表3から明らかなように、日本語の授与動詞は本動詞以外の用法として用いられると、補助動詞の形式で「恩恵」と「非恩恵」の用法として用いられる。表3に示したように、「恩恵」に関しては、「テアゲル」「テクレル」「テヤル」はそれぞれ95%を越えており、「非恩恵」より圧倒的に多い。つまり、日本語の授与動詞「アゲル」「クレル」「ヤル」は補助動詞として用いられる際、「恩恵」に無関係の用法としても用いられるが、中心義の用法としては「恩恵」であると明らかになった。「恩恵」は全体の割合を多く占めているため、それに関して述べていく。

<恩恵>

ここではタイ語の *hây* にない一方で、日本語の授与動詞の補助動詞用法に存在する「恩恵」をみていく。「いる」「心配する」「わかる」等のような受け手に関係がない動詞や無意志動詞の場合、日本語では授与動詞の補助動詞を付け加えることにより、「恩恵」を表す場合がある。それに対し、

タイ語では話者にとっての恩恵的な行為か否かは関係なく、単なる動詞だけで済まされる。

(J8) 明里さえいてくれれば僕はそれに耐えることができる。

(T8) tèe thâa mii ?aakaari **yùu** mâywâa ?aray phôm kôo ca
 でも 条件 存在する 明里 いる 何でも 一人称 助辞
 phaan man dâi thánán
 乗り越える それ できる 全て

出典：原作『陽だまりの彼女』訳本『Yîngsáaw nay sêj tawan』

(J8) と (T8) は同様の状況であり、「明里」が話者の「僕」のそばにいてくれれば何があっても耐えられるということを表す場面である。(J8) で見られるように、日本語では「てくれる」を「いる」に付加することにより、「いる」の行為は話者にとっての良い恩恵的な行為として捉えられていることがわかる。それに対し、(T8) のタイ語では恩恵的な行為か否かに関係なく、「yùu」(いる)の動詞自体は一項動詞であり、受け手には関係がなく、行為の到達点を表さない動詞である。この場合、単なる「yùu」(いる)の動詞だけで済まされている。

(J9) おまえならきつと、こういうことをわかってくれると思っ、(略)

(T9) pùu núk wáy mây phit wâa câw ca tøj **khâwcaj**
 一人称 思う 間違いない ~と 二人称 きつと わかる
 rúaj bèepnii (略)
 こういうこと

出典：原作『世界の中心で、愛をさけぶ』訳本『Yâak kùuróng bòok rák hây kôj lôok』

(J9) も (J8) と同様に、日本語では「わかる」の無意志動詞の場合でも「テクレル」を付け加えることにより、話者にとっての恩恵的な行為、この場合は良い恩恵の意味が生じる。これに対し、タイ語では恩恵的な行為を問わず、「khâwcaj」(わかる)の単なる動詞で済まされている。

上記のような同様の状況で日タイ語の実例を比較することによりこれまで明らかになっていない日本語の授与動詞の補助動詞における恩恵を表す特徴に関して証明できるといえよう。すなわち、同様の状況において日本語では授与動詞の補助動詞が用いられているが、タイ語では用いられていないことから、日本語の授与動詞の補助動詞は、出来事に対する話者にとっての利益或いは被害や迷惑のような情意を表す表現、つまり、「恩恵」として用いられると考えられる。

5. 2. 2 タイ語の場合

タイ語の授与動詞は本動詞以外の用法の出現数を以下の表 4 に示す。

表4 意味用法別の本動詞以外のタイ語の授与動詞の出現数

本動詞以外の用法		hây
前置詞 (文末詞を含む)	「与格」「代理」「加害」	227 (31.05%)
接続詞	「目的」「命令・依頼」「願望」	504 (68.95%)
合計		731 (100.00%)

表4に示したように、授与動詞 hây の本動詞以外の用法には、前置詞（文末詞を含む）と接続詞が存在する。先行研究に基づき、前置詞（文末詞を含む）としての用法は「与格」「代理」「加害」（T & U 2008, Iwasaki 2008）、接続詞としての用法は「目的」「命令・依頼」「願望」（T & U 2008）を分類した。構文上における同一の役割に属しているそれぞれの詳細な用法は構文的・意味的には微かに異なるが、共通点が見られる。このように、現れ方は日本語と異なり、意味的にも前置詞としての用法と接続詞としての用法における違いは明確に見られる。表4からわかるように、前置詞としての用法は31.05%である一方、接続詞としての用法はより多く、68.95%を占めている。前置詞としての用法には日本語の授与動詞の補助動詞に対応しているものも対応していないものもあるが、接続詞としての用法は日本語の授与動詞に対応していないことが多い。紙幅の関係でここでは前置詞の「与格」と接続詞（「目的」「命令・依頼」「願望」）についてのみ述べていく。

<与格>

「与格」は「NP1 VP hây NP2」の構文であり、hây は行為の受け手である NP2の前に位置し、前置詞として用いられる用法である。「与格」の hây は本動詞にある「授与」の意味に基づき、物体の授与の意味を拡張したと考えられる。すなわち、「授与」の行為は「動作主」「対象物」「受け手」のような要素から成り立ち、「与格」の場合、「受け手」の方は行為の対象の到達点になることを表す（T & U 2008: 627）。この「与格」の hây は、通常、受け手のところに何らかの物が残っているという行為の対象の到達点（受け手）を表す状況で用いられる。その他に、行為の向かう方向を表すために、「pàət」（開ける）のような二項動詞の場合にも「yím」（微笑む）や「khayip-taa」（ウインクする）等の一項動詞の場合にも用いられる。このような場合は下記の実例に示すように、日本語の授与動詞に対応していない。（例文では前置詞の後の名詞が省略されているが、ここでは省略名詞を（ ）括弧に入れる。）

(T10) (略) phôm dæn soosee pay **pàət** **pratuu** **hây** (mêε)
 一人称 歩く よろめく 行く 開ける ドア GIVE 母

(J10) 僕がよろめきながら歩いて行って（母の方に）ドアを開ける（略）

出典：原作『Weclaa nay kùat kêw』訳本『瓶の中の時間』

(T11) phii-wêw **yím** **hây** **phôm**
 姉・ウェーウ 微笑む GIVE 一人称

(J11) ピー・ウェーウは僕に微笑んだ。

出典：原作『Weelaa nay kùat kêew』訳本『瓶の中の時間』

(T10) と (J10) で見られるように、二項動詞である「pòət」(開ける)の場合、タイ語では「pòət pratuu hây (mêe)」のように「(母の方に) ドアを開ける」という文になり、hây を用いることによって話者のお母さんの方にドアを開けるという出来事を表しているが、日本語では「ドアを開ける」のように単独の動詞で用いられている。さらに、(T11) と (J11) に関しては、タイ語では「yím hây phǒm」(僕の方に微笑む)という文になり、hây を用いることによって行為の向かう方向は「phǒm」(僕)であることを示している。T & U (2008: 628) によると、この用法は誰かへの物体の授与を表さないが、「ウィンクする」や「微笑む」という行為は誰かに対して向かう意味を表す。(J10) と (J11) のように、日本語では授与動詞が用いられておらず、タイ語原文においても特に与格名詞への「恩恵」を表していない。

<接続詞(「目的」「命令・依頼」「願望」)>

日本語にはない用法を更にみると、接続詞として用いられる「目的」「命令・依頼」「願望」の用法がある。この3つの用法の構文的な特徴に関しては、前置詞と異なり、「NP1 VP hây NP2 VP」構文である。すなわち、この構文における hây は「NP1 VP」の文と「NP2 VP」の文を繋ぐ機能として用いられる。「目的」「命令・依頼」「願望」は全て共通の構文が認められるが、hây に先行する動詞によって構文の意味が異なる。「命令・依頼」の場合は「bòok」(言う)、「sàŋ」(命令する)、「khǎo」(頼む)のような命令や依頼の意味のある動詞と共起し、「願望」の場合は「yàak」(～たい)や「tǒŋkaan」(欲しい)のような願望の意味のある動詞と共起する。「目的」の場合は命令、依頼、願望を除く意志を表す全ての動詞と共起可能である。また、これらの3つの用法は hây の後続の語句の目的で何らかの hây の前接する行為を行うという意味を持つことから、働きかけ性、つまり本動詞に内在する「使役」の意味を含意していると考えられる。

(T12) fāw **khǎawkhǎn** **hây** nǐŋ pən yàaŋ mêe
いつも 強制する GIVE ニン ～になる ～のように 母さん

(J12) 母さんは、自分のようになるようにと、いつもニンに強制していたのだった。

出典：原作『Weelaa nay kùat kêew』訳本『瓶の中の時間』

(T13) kuu **bòok** **hây** muŋ pay
一人称 言う GIVE 二人称 行く

(J13) 言っただろう。

出典：原作『Weelaa nay kùat kêew』訳本『瓶の中の時間』

(T14) mêe **yàak** **hây** chǎn rian nay rooŋrian thīi mii phūuyǐŋ lúan
母さん ～たい GIVE 一人称 勉強する 学校で 関係代名詞 いる 女の人だけ

(J14) 母さんが、女の人だけの学校に転校させたがっているんだ

出典：原作『Weelaa nay kùat kêew』訳本『瓶の中の時間』

(T12) ~ (T14) のようにタイ語では授与動詞 *hây* を用いることにより、「目的」「命令・依頼」「願望」の順にそれぞれの意味を表しているが、日本語の (J12) ~ (T14) では授与動詞が用いられていない。(T12) と (J12) では、母はニンである娘に自分のようになると強制していたと話者が述べた状況である。(T12) のタイ語では *hây* を接続詞として用いることにより、「*nĩn pen yàan m̄e*」(ニンが母のようになる) という目的で母が「*khíawkhèn*」(強制する) という意味を表している。(J12) の日本語では授与動詞ではなく、「~するようにと + V」という文法表現で表されている。また、(T13) では *hây* を用いることによって「*muŋ pay*」(お前が行く) ようにと「*bòok*」(言う) のような命令を表しているが、(J13) の日本語では「言った」のような動詞のみが用いられている。さらに (T14) のタイ語では *hây* を用いることによって「*chǎn rian nay roŋrian thĩi mii phũuyĩn lúan*」(女の人だけの学校に勉強する) ということは母がさせたがっているということを表しているが、日本語の授与動詞の補助動詞はこのような用法がないため、「転校させる」という使役形が用いられている。このように、これらの3つの接続詞 *hây* は、日本語の授与動詞の補助動詞に対応しておらず、全て恩恵に無関係の用法であることが明らかになった。

5. 2. 3 まとめ

日本語の授与動詞は補助動詞の形式で「恩恵」か「非恩恵」へ拡張したが、「恩恵」が中心義の用法である。一方、タイ語の授与動詞は、前置詞（文末詞を含む）や接続詞の形式で「恩恵」に無関係の用法がほとんどであり、それが *hây* 用法の中心義ではない。

6. まとめと今後の課題

本稿では対訳コーパスのデータに基づき、日本語とタイ語の授与動詞の意味用法を比較することによって、両言語の授与動詞の用法における類似点及び相違点を明らかにした。具体的には、本動詞の場合、両言語を通じて「授与」として用いられるが、両言語の授与動詞の性質が多少異なる。日本語では授与動詞のみで具体的な行為が含まれているが、タイ語では授与動詞のみでは具体的な行為が含まれていない。また、タイ語の授与動詞は、「授与」の意味の他に、日本語の授与動詞にはない「使役」の意味も存在する。さらに、本動詞以外の用法として用いられると、日本語では、補助動詞の形式で「恩恵」か「非恩恵」が存在するが、「恩恵」が中心義の用法である。それに対し、タイ語の授与動詞は前置詞（文末詞を含む）や接続詞の形式で「恩恵」の意味にも読み取れる場合があるが、ほとんどが「恩恵」に無関係の用法であり、それが全く *hây* 用法の中心義ではない。

本稿では対訳コーパスを用い、両言語の授与動詞の意味用法の異同について考察した。しかし、両言語における授与動詞の用法の異同の背景にある本動詞からその他の用法への拡張過程に関しては考察できなかったため、これについて文法化理論に基づき、考察することを今後の課題にしたい。

注

- 1 タイ語の音声表記には本稿では IPA 表記を採用する。同じ IPA 表記でも、二重母音の第 2 音については「hây」／「hâi」のように表記が異なる場合があるが、本稿では現代の研究で一般的になっている前者の「hây」を統一して用いる。
- 2 本稿で用いられるコーパスの資料は次の通りである。
 - 1) 小川洋子 (2005) 『博士の愛した数式』新潮社, Methasate, Assada-Namthip (2004) *Dók-tà kàp rúut lé? sùut rák khǒng khāw*. Bliss Publishing / 2) 片山恭一 (2006) 『世界の中心で、愛をさけぶ』小学館文庫, Ketsakul, Ruthaiwan (2005) *Yàak kùu-rǒng bǒk-rák hây kǒng lǒok*. Nation Books International Co., Ltd. / 3) 川村元気 (2014) 『世界から猫が消えたなら』小学館, Khongsuwan, Danai (2016) *Tàa lǒok níi máy mii meew*. Maxx Publishing / 4) 越谷オサム (2008) 『陽だまりの彼女』新潮社, Methasate, Namthip (2015) *Yìy sǎaw nay sǎeng tawan*. Sunday Afternoon Publication / 5) 新海誠 (2007) 『秒速 5 センチメートル』角川文庫, Tangchitree, Nunramon (2013) *Yaam saakurá? rúang-rooy*. Animag Books / 6) 七月隆文 (2016) 『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』宝島社, Ketchaimat, Kanokwan (2017) *Prúgníi phǒm cà dèet kàp thǎ khon mǎu-uawaan*. Maxx Publishing / 7) リリー・フランキー (2010) 『東京タワー ―オカンとボクと、時々、オトン―』新潮社, Yamamoto, Thippawan (2013) *Tookiaw thawwǎ mèe kàp phǒm lé? phǒw nay baangkhraaw*. Amarin Printing & Publishing Public Company Limited. / 8) Chiamcharoen, Wimon. (2015) *Khúu-kam*. Nabaanwannagum Publishing. 西野順治郎 (1978) 『メナムの残照』角川文庫 / 9) Sevikul, Prabhassorn. (2015) *Weelaa nay kùat kǎew*. Nanmeebooks, 藤野勳 (2015) 『瓶の中の時間』Nilubol Publishing House / 10) Wetchachiwa, Ngamphan (2016) *Khwaamsùk khǒng kathí*. Amarin Printing and Publishing Public Company Limited, 大谷真弓 (2006) 『タイの少女カティ』講談社

参考文献

- 江田すみれ (1983) 「『てやる・てくれる・てもらう』とタイ語の表現—hâi の用法に注目して—」『日本語教育』49. 119-132.
- 上原聡 (2016) 「言語対照のための主観性表現の類型試案—日本語を題材として—」『東北大学言語文化教育センター年報』1. 東北大学高等教養教育学生支援機構. 33-43.
- 大江三郎 (1975) 『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂
- 久野暲 (1978) 『談話の文法』大修館書店
- 高見健一・加藤鉦三 (2003) 「『てやる』表現の意味の多様性と基本的意味」『言語』32 (2) . 94-99.
- 田中寛 (2004) 『統語構造を中心とする日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房
- 豊田豊子 (1974) 「補助動詞『やる・くれる・もらう』について」『日本語学校論集』1. 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校. 77-96.
- 益岡隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30 (5) . 26-32.
- 山田敏弘 (2004) 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』明治書院
- 山橋幸子 (1999) 「受益表現『(-て) くれる』の機能と日本語教育」『比較文化論叢』4. 札幌大学文化学部. 79-96.
- Youyen, Pattarawan (2001) 「受益文におけるタイ・日語の対照研究」『バンコック日本語センター紀要』4. 国際交流基金. 45-58.
- Iwasaki, Shoichi (2008) 'Bipolar distribution of a word and grammaticalization in Thai: A discourse perspective' in Diller, Anthony V. N., Jerold A. Edmondson, and Yongxian Luo (eds.) *The Tai-Kadai Languages*. New York: Routledge. 468-483.

- Iwasaki, Shoichi and Foong-Ha Yap. (1998) 'Give' constructions in Thai and beyond: A cognitive and grammaticalization perspective' *Proceedings of the International Conference on Tai Studies*. 371-382.
- Rangkupan, Suda (2007) 'The syntax and semantics of GIVE-complex constructions in Thai' *Language and Linguistics*. 8 (1). 193-234.
- Thepkanjana, Kingkarn and Satoshi Uehara (2008) 'The verb of giving in Thai and Mandarin Chinese as a case of polysemy: A comparative study' *Language Sciences*. 30. 621-651.